

平成28年度学校評価アンケート結果の分析

1 生徒対象アンケート結果から

昨年度と比較すると、25項目中9項目で肯定的評価が増加している。

1 私は、校訓「自主・自律」を意識して学校生活を送っている。	79.4% (-1.1%)
--------------------------------	---------------

ここ9年間の肯定的評価の数値を見ると、71.9→69.2→69.2→75.2→76.4→77.1→82.4→80.5→79.4%と平成21年に一度落ちた後、徐々に上がり80%程度に落ち着いてきている。

学校の校訓や方針が生徒に浸透しており、校訓を意識して学校生活を送っている様子が伺われる。

学習の習慣について

5 私は、授業以外での学習の習慣が身に付いている。	44.7% (+4.2%)
---------------------------	---------------

「家庭学習の習慣」を「授業以外での学習の習慣」の文言に代えたことによるプラス評価と思われる。

1年生の数値が低いのは例年のことである。改善策については、様々な意見があろうかと推測する。学校全体で取り組むべき問題である。差し当たり、新年度に向けてこの3学期に取り組むことは良いタイミングと言えよう。授業以外での学習を通して基礎学力をつけないと応用力の習得には繋がらない。

4 私は、授業内容がよく理解できる。	65.7% (-3.6%)
6 先生は、生徒が積極的に授業に参加できるよう工夫している	69.0% (+1.6%)
7 先生は分かりやすい教え方をしている。	68.1% (-4.3%)
8 授業は基礎学力の定着に役立っている。	77.4% (-2.5%)
11 私は、国分高校の授業に満足している	67.3% (-5.4%)

授業に関する項目では、いずれも肯定的な回答が50%、60%台である。唯一、項目8の「授業は基礎学力の定着に役立っている」が70%を超えている。ところが4の「私は、授業内容をよく理解している」が65.7%と高くない。受験を意識して、より発展的な内容を求めている生徒と、基礎学力がやや足りず、授業についていくのに苦労している生徒の両面が推察される。これを解決するのは難しい問題である。基礎的な内容は丁寧に指導し、定着を図る。また、応用的内容も取り入れるなど、創意工夫が必要である。授業そのものに対する研修など、教員側の改善策が求められる。部活動や行事が盛んなのは良いが、進路のことも含めつつ学習の大切さを考えさせる必要があるのでは。絶えず教員側が授業改善を意識する必要はある。

学習活動(授業・学力向上)に関する項目は、項目番号4～11である。8項目中、昨年比プラス評価は5と6の2項目である。5を除く7項目はすべて授業に関する評価である。6の「生徒が積極的に授業に参加できるような工夫」がプラス評価であるが、それ以外の、授業に関するわかりやすさ・学力の定着・知的好奇心・満足度等はいずれもマイナス評価である。これは、昨今の課題でもある「協働作業を通じての参加型の授業」を試みる職員が増えているが、現実にはそうした授業に追いついていくことができない生徒もいる、とも解釈できる。授業に関する評価が低いものが多い。個々の教員が生徒の満足のいく授業を心がけるのが第一であるが、学校としても授業力向上のための組織的な取り組みを検討する時期かも知れない。

9 授業は応用力の伸長に役立っている。	58.2% (-4.6%)
10 授業は私の知的好奇心を満足させてくれる。	54.8% (-3.8%)

進路面については

12	私は、自分の進路を意識して勉強している	65.7% (-2.9%)
----	---------------------	---------------

1年45.6%、2年66.1%、3年86.6%と学年が上がる毎に増加している。1年次の45.6%という値には注目すべきである。半分以上の生徒が将来のために学習に臨んでいないことは、問題ではないだろうか。1年次より、進路ガイダンスなどを通して、効果的な動機付けして、学力の必要性を示していく必要があるだろう。学力の伸張は早い時期の取り組みが成果を生むので、学校、家庭などで学習時間の確保を考えると大事である。1年時からこの意識をもって勉強していくならば、より高いレベルの進路実現が可能となるであろう。このあたりの国分生の取り組みの甘さが伸び悩みの大きな原因だと分析する。

13	国分高校は進路指導に力を入れている	81.7% (0%)
----	-------------------	------------

全体として81.7%の生徒が学校の進路指導を評価してくれている。この指導が生徒にとってよい成果となってほしい。進路関係の各行事がそういった印象を与えていることは間違いないだろう。

生徒指導・生活面について

14	私は、国分高校の校則や社会のルールを守って行動している。	93.3%(+1.9%)
15	国分高校は生徒指導をしっかり行っている。	85.8%(-0.3%)
16	先生方は、生徒の相談に親身になって応じてくれる。	81.9%(+0.6%)
20	私は、部活動に積極的に取り組んでいる。	85.3%(+0.6%)

次年度以降も改善に取り組んでいく必要がある。また、学校への満足度も高いのも本校の特徴であるので、この点を維持していく為の努力も必要である。交通安全、盗難防止、インターネット上のトラブルなどにつながる項目でもあるので、来年度にむけて積極的な働きかけをしていきたい。

21	私は、きちんと清掃活動を行っている。	89.8% (+0.2%)
22	私は、校内におけるゴミの分別に協力している。	88.8% (-0.2%)
23	私は、自分の健康管理に十分留意している。	87.1% (-0.6%)

清掃活動やごみの分別に於いて、9割近くの生徒が自覚し実践していることがわかる。生徒の健康観は概ね良好である。

25	国分高校に学校相談窓口があることを知っている。	43.9% (+1.9%)
----	-------------------------	---------------

「国分高校に学校相談窓口があることを知っている」が43.9%と、1.9%増と改善されたものの、次年度以降も改善に取り組んでいく必要がある。

24	私は、国分高校に入学してよかったと思う。	91.5% (+0.7%)
----	----------------------	---------------

全般的には、項目24のこの高い肯定的評価が生徒の気持ちをすべて表現していると思われる。これらの背景には、勉強のみならず、部活動や学校行事などに積極的に取り組んでいる生徒の姿があり、またそれらを支えている教職員があつてのことだと思う。その辺りを示しているのが次の5項目であると考えられる。学校は生徒が期待している環境を十分に維持できていると判断できる。

学校生活全般に関するアンケートではいずれも肯定的な回答が80%を超え、90%にも達している項目もある。国分高校での学校生活に多くの生徒が充実感、満足感を持って過ごしていると思われる。今後は「自主自律」の精神をより浸透させ、責任感のある自発的な行動をとれるように導きたい。

授業以外の諸活動への肯定的評価はおおむね8割を超え、満足度が高い。ホームルーム活動が活発で

あるという点でマイナス評価が増加していることも気になる。

学校生活全般(学校行事・生徒会活動・部活動)に関するアンケートでは、いずれも肯定的な回答が多く、国分高校での学校生活に多くの生徒が満足している。

2	国分高校は、私たちの教育活動にふさわしい環境である。	88.7% (-3.1%)
3	国分高校の学校行事は充実している。	93.0% (-1.2%)
17	国分高校のホームルーム活動は活発である。	75.1% (-5.0%)
18	国分高校の部活動は活発である。	92.5% (-1.3%)
19	私は、梨香祭や合唱祭などの学校行事に積極的に取り組んでいる。	92.4% (+0.9%)

2 保護者対象アンケート結果から

回答率に着目すると、この7年間の数値は、63.2%→74.4%→62.1%→80.6%→85.7%→88.8%→66.6%→79.0%となっている。保護者のご協力に感謝したい。

学校から家庭への情報伝達という観点で見ると、

1	学校は教育方針を分かりやすく伝えている。	81.3% (-2.8%)
5	学校は家庭への連絡や情報提供をきめ細かく行っている。	63.0% (-8.4%)
6	授業公開等の学校行事には気軽に参加する雰囲気がある。	88.0% (-2.4%)

保護者と学校の連携に関する項目では、肯定的な回答が50%、60%台のものが多い。1学年は、学年職員との接する機会がまだ少ないことや、中学校との比較が考えられる。高校の場合は、中学校ほどの緊密な連携は取りにくい、日常の教育活動において、より信頼が得られるように心掛けなければならない。

6については、各学校行事へ参加する保護者が多くおり、保護者の学校行事への参加が、数値の高さにつながっていると考えられる。

2	学校の教育方針について共感できる。	87.6% (-0.9%)
7	学校のPTA活動は活発に行われている。	76.3% (-5.6%)

生徒同様、学校の教育方針、学校生活全般に関するアンケートはいずれも肯定的な回答が80%近い値となっている。国分高校での学校生活に多くの方が満足していただいているようである。本校に対して大変好意的に評価していただいている傾向がある。それは担任の先生方を中心とした日頃の教育活動の賜物である。また、総務部を中心とした日頃の保護者との協力関係によることも大きいと思われる。国分高校での学校生活に多くの保護者が満足していると思われる。

次に、個別の指導および相談という設問では、

8	学校の先生は生徒に対し親身になって指導している。	81.3% (-3.3%)
9	子どものことで困ったことがあった場合、先生と気軽に相談できる。	73.9% (+0.4%)

この2項目は、自身に該当することがなければ、回答しづらい設問であろう。概ね問題ない数値と言えるが、20の教育相談窓口の周知も合わせて数値をUPする努力をしたい。

学習面に対する評価では、

11 学校では学力向上に向けた授業が行われている。	71.0% (-2.4%)
---------------------------	---------------

「項目 11・学力向上に向けた授業が行われている」が若干昨年比を下回っており(昨年比-2.4%)、授業改善の余地がある。学習面においては、学校だけの問題ではないが、不満のある保護者も多くいる。

学習活動(授業・学力向上・進路実現・家庭学習)に関する項目は、項目番号10~12である。全体的には、いずれも昨年比マイナス評価である。ただ、例年のことではあるが、3年生に関しては評価数値が高い。保護者が子どもの様子を見ての結果であるので、生徒が3年になって急に勉強熱心になる様子がうかがえる。

12 家庭学習の時間を確保し、自主的に学習する態度ができています。	50.6% (-4.9%)
-----------------------------------	---------------

低い数値(50.6%)ではあるが、生徒の数値(44.7%)よりは高い数値である。子どもの学校生活全般にわたる肯定感(項目 3 や項目 18)との関連か。

進路面については

10 1年から3年までの教科・科目は子どもの進路実現に対応したものになっている	78.1% (-0.5%)
---	---------------

生徒対象アンケートでの分析と重なるが、3年時には個々の進路が個別化し、カリキュラム上無関係と思われる側面がどうしても出てしまうことがあるのではないかと。高校の学習は受験のためにあるわけではなく、特に1, 2年では文理を問わず幅広く学習することを学校として重視していることを周知したい。

13 学校は生徒の進路目標の達成に向け、適切に指導している	73.0% (-2.9%)
-------------------------------	---------------

全体として昨年より2.9%さがり、73.0%になった。生徒自身の進路へのかかわり方が希薄化しているのではないかと考えられる。生徒自身の進路の考え方を把握しにくくなっているのではないかと。保護者も家庭で生徒自身の進学先や就職などについて一緒に考えていく必要があるのではないかと。3年になると82%と保護者の肯定的意見が多いので、12年から多くなるような方策が必要であろう。

生徒指導・生活面について、

14 基本的な生活習慣が身についている。	84.0% (-2.3%)
----------------------	---------------

15 学校は日常的に頭髪・服装等きめ細かい生徒指導が行われている。	69.6% (+1.0%)
-----------------------------------	---------------

16 学校は子ども悩みや問題に適切に対応している。	73.3% (-0.9%)
---------------------------	---------------

肯定的評価が7割を切っているのは、「頭髪、服装などの指導(68.5%)」「Web ページをよく見ている(39.2%)」「教育相談窓口の存在(41.2%)」の3項目であった。問題となるのは頭髪、服装指導であるが、これは学年だけの問題ではないので、学校全体の課題であると考えられる。

学校生活、部活動、行事、基本的な生活習慣等に関する項目については高評価である。「日常的に頭髪、服装などについて、きめ細かい生徒指導が行われている」という項目の評価が極端に低い。これは学年ごとの服装指導はあるものの、どうしても教員個々の指導に頼ってしまっている現状があり、特に女子のスカート丈、化粧、装飾品、式典などできちんとネクタイをしめさせることなどについて、職員間の共通理解のうえで同じ指導をすることが保護者の期待に応えることにつながると思われる。

保護者の方々も好意的に学校を見てくれている様である。16の「学校は子どもの悩みや問題に適切に対応している。」の割合は低いが、生徒のアンケート 16「国分高校の先生方は、生徒の相談に親身になって応じてくれる。」(81.3%)では高い満足感を得られているので、生徒が直接先生と相談していることがうかがえる。また、学校の発信する情報が上手く伝わっていないようだ。

17	学校は清掃美化や環境整備が十分に行われている。	76.2% (-1.5%)
----	-------------------------	---------------

清掃等、環境整備に関して十分である評価が12%台であるが校舎の老朽化が原因であろう。概ね清掃活動については理解を得ている。

19	学校の Web ページをよく見ている。	30.1% (-3.4%)
----	---------------------	---------------

20	学校に教育相談窓口があることを知っている。	39.1% (+2.5%)
----	-----------------------	---------------

学校のホームページではIDとパスワードを忘れてしまい見られない人が多数いる。こまめに更新してくれる先生と、しない先生との差がある。更新が少ないなどサイト運営側に問題があると思われる。

「学校に教育相談窓口があることを知っている。」が 2.5%増と改善はしたが、肯定的回答は 39.1%であるため、周知を図る必要がある。また、生徒が悩みを抱えた時の対応に関するいくつかの項目も肯定的意見は 73%前後であり、昨年比も減少しているため改善が必要である。

全般的には、

3	私の子どもは、学校が楽しいと感じ、生き生きと生活している。	90.2% (-1.4%)
---	-------------------------------	---------------

4	学校の部活動は充実したものになっている。	79.1% (-5.0%)
---	----------------------	---------------

18	私は、子どもを学校に入学させて良かった。	92.5% (-2.4%)
----	----------------------	---------------

「学校の部活動は充実したものになっている。」が 5.0%減の 79.1%となっている。活動、成績、施設などどのような面が問題なのか、検証が必要である。

総論として、「私は、子どもを学校に入学させてよかった」、「私の子どもは、学校が楽しいと感じ、生き生きと生活している」が 90%以上あることに、本校への十分な評価を感じる。

また、アンケート結果で上昇があれば、必然的に一定程度のところでは下降する。アンケート結果を受け止めて検証することは必要だが、一方でその数字に対して過剰に一喜一憂し右往左往する態度は戒めたい。成果主義的な観点を優先した教育活動は、教育活動そのものを歪める危険性があり、それに振り回されることは逆にマイナスになると思われる。もちろん、保護者との関係について、必要に応じた十分な説明や対応は極めて重要で、保護者との信頼関係がなければ教育活動が十分機能しないというのは論をまたない。そのための日常的な努力が必要である。

3 教職員対象アンケート結果から

教職員アンケートは回答数が少ないため、パーセントだけを見て比較分析するよりも何名が肯定的で、何名が否定的な回答を出しているかを踏まえての分析が必要とのことから、集計結果のグラフの数値は人数で示してある。

学校経営に関する項目では、

1	本校の教育活動の情報提供を適切に行っている。	96.6% (+1.7%)
---	------------------------	---------------

2	本校は地域社会に開かれた学校づくりを行っている。	98.3% (±0%)
---	--------------------------	-------------

3	本校は学校相互、地域社会、関係機関との協力体制が確立されている。	100% (+5.2%)
---	----------------------------------	--------------

2は、本校の開かれた学校づくりの取組が理解されているといえるが、39メールの活用として、学校相談窓口の案内、制服移行期間、臨時休校、学校相談窓口の案内、PTA総会などが挙げられた。

生徒に関する項目では、

4	本校生徒は、いきいきと学校生活を送っている。	91.4% (+3.4%)
10	本校生徒の授業態度は良好である。	93.0% (-1.8%)

職員自らの授業取組に対する意識と、生徒の授業取組に対する意識は、ともに肯定感が顕著である。「項目 9、10」対照的に(矛盾するように)、生徒の学力向上と学習意欲の高まりに関しては肯定感が低い。「項目 11、12」「真面目な授業態度にもかかわらず、学力向上が望めていない」状態が検討課題である。

教師は授業においても、指導においてもよく努力している。また、生徒の取り組む様子においても良好な感触を抱いており、両者はうまく噛み合っているのは、大変好ましい日常であると考えられる。国分高校が教えやすい、生徒も素直な「良い」学校だ、との印象はここで裏付けられているのではないかと。

対照的に

11	本校生徒は基礎基本を身につけ、学力が向上している。	75.9% (+9.2%)
12	本校生徒は自学自習の習慣が身につけており…。	61.4% (+14.0%)

職員による生徒の「学習習慣」「学力向上」「学習意欲の向上」に関して大幅なプラス評価が見られたが、相反するように、同様の項目において生徒の評価は低い。生徒の意識とは合致しないが、真面目で意欲的な授業態度の生徒が多いと感じる職員の数が増えている、と解釈できる。学年が上がるにつれ、進学を意識させ、自発的な学習を促して行きたい。ここが改善されるためには、授業の内容とレベルの設定、進路指導を意識した授業目標の設定が必須ではないかと考察する。単に授業が「うまくいっている」だけでは不足していると考えざるをえない。

これらをよく捉えた改善策を今年度内に練る必要を切に感じるものである。総合的に考えて、子ども達にとって、穏やかに生活できる環境ではあるが、学習面や生活指導面でこの入れが必要だと思われる。進路を意識した3年と1・2年では様子がだいぶ違う。

7	学年経営や学級経営を行うに当たって、その方針について保護者に理解が得られている。	94.7% (+1.9%)
8	本校の教育課程は生徒の実態やニーズに即したものになっている	79.3% (+1.7%)

教育課程に関する項目が2年続けてマイナス評価であったが、今年度はプラス評価に変わった。新教育課程が一巡し、二廻り目となって安定感が出てきたとも解釈できるが、今後も定期的に見直しを継続したい。

まだ、自分の将来の進路に即した学習が身に付いていない。学習に対して、目的が不足がちである。自学自習の習慣が身に付いていない。また、進学校にふさわしい教育課程に改善する余地もある。

13	本校では1学年から発達段階に即した系統的・計画的な進路指導が展開されている。	93.0% (+5.1%)
----	--	---------------

学年によって取り組み方が違うところもあり、学年の裁量も残しつつ、どの学年にも共通する系統的・計画的な進路指導(進路学習)のプログラムを工夫していきたい。

それ以外の項目では、

14	本校生徒は、基本的な生活習慣が身につけている。	87.9% (+3.4%)
15	本校生徒は、自他の人格を尊重し、他人に対する思いやり…。	93.1% (+6.9%)
17	部活動は本校の教育目標を達成する上で、大きな比重を占めている。	89.7% (+1.7%)
18	生徒会活動(生徒会行事)は本校の教育活動の活性化に結び付いている。	100% (+10.3%)
19	本校では生徒が怪我や事故のない学校生活を送ることができるよう…。	86.2% (-5.2%)

この5つの項目の評価からも落ち着いた学校の様子が窺える。19の項目の肯定的な回答の減少については、構造的改善により、再発防止に努めなければならないと思われる。健康安全については生徒棟3Fの渡り廊下出入り口の上部引き戸レールで頭部を怪我する事故が2件起きており、対処した。

校内清掃に関する項目で、

20	国分高校の校舎内の清掃等は行き届いている。	74.1%(+1.7%)
----	-----------------------	--------------

清掃に於いて生徒の下校と重なり十分に清掃活動ができない箇所(階段や昇降口)の工夫が必要である。

教職員自身の項目では、

5	学年会は教育活動の計画・実践・評価の場として有効に活用…。	96.2%(+10.0%)
6	私の学年では、生徒一人一人を大切にしている指導が実践されている。	98.1%(+8.5%)
9	生徒の基礎基本の定着や学力向上に向けて、授業法の改善や工夫…	96.4%(+3.6%)
16	本校の教職員は、共通理解のもと生徒指導に取り組んでいる。	77.2%(+4.8%)

生徒アンケートの「授業の工夫」に関する肯定的結果と合致するように、職員の「授業の工夫・改善」に対する姿勢も前向きである結果が見られた。16の9年間の肯定的評価の数値を見ると、70.0→79.6→80.0→67.3→64.2→82.0→67.2→72.4→77.2%と他の項目より変動が大きい。60名に満たない教員のうち、毎年1割以上は異動する。母数そのものも少ないことを考えると、数字は大きな変動を伴うのが当然と考えられるものの、職員の共通理解の面で評価が低いのは、以前に比べ十分に議論する場が少なくなっていることが要因ではないか。各教科の職員室をこえて話す機会も減っている。生徒のこと、授業のこと、行事や部活動、その他諸々、情報交換したり議論したりする機会が減ったことの弊害は大きいと思われる。共通理解を進める必要がある。

生徒、保護者に比べて肯定的評価の割合が高いのは、無意識に他校との比較で考えてしまうからではないかと分析する。確かに他の公立高校に比べれば肯定的評価が高い学校であると思うが、例えば授業に関する評価が生徒の評価と教員の自己評価の間にギャップがあるように、生徒の意識と職員の認識の差を埋める努力が必要である。全体的に生徒、保護者の肯定的回答は昨年比減の項目が、教職員は昨年比増の項目が多い。

より良い職場環境を作り上げるように、学校での教育活動だけでなく様々な活動を通じて協力し信頼できる教育環境を作り上げることが大切であると思う。また、日頃の仕事の忙しさも教育環境に影響を及ぼしているようだ。